

2017年度 Q3 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2018年2月1日（木） 16時00分～16時30分

出席者：松島副社長

Q: Q3の3ヶ月の受注は前年同期比▲10%の減少だが、これに関する見解とQ4の受注の方向感を教えて欲しい。

A: Q3の3ヶ月間については、前年同期にあった公益や通信キャリアからの大型受注の反動減があった。但し、これらの減少は当初から想定していたもの。もう少し減少するかと思っただが、若干取り戻した印象はある。

Q4の受注については、15年度、16年度と非常に好調な受注環境で、例えば16年度には流通関連で特別な受注もあった。今期についてはその辺りをどうカバーできるか注目している。まだ、1月が終わったばかりなので何とも言えないが、今後の駆け込み受注なども期待したい。一番の目標は期初計画を達成することで、如何に上積みできるかはこれからの頑張り次第。

Q: 事業グループ別の「その他」の項目について、CTC ライフサイエンスを CTC に取り込んだ影響とあるが、その実行時期と定量インパクトを教えて欲しい。また、グローバルビジネスの状況も教えて欲しい。

A: 前年4月に CTC ライフサイエンスを CTC の流通・エンタープライズ事業グループに統合した。その定量インパクトは、Q3 累計で受注、売上それぞれ 20～30 億程度で、「その他」から「流通・エンタープライズ」に組替えられた。

グローバルビジネスについては、今年度はマレーシア、シンガポールともに前年同期の金融向け大型案件の反動減により、若干見劣りしているが、当初の想定範囲内で進捗している。

Q: 不採算案件の影響を除く売上総利益率は、Q3の3ヶ月で前年同期比0.2pts改善しているが、モデル別ではどのような動きがあったか？

A: モデル別で見ると、開発・SI が 1pt 強改善している。また、製品についても 1pt くらい改善している。サービスに関しては、それほど変化はない。

Q: 不採算案件について、後に引きずるような案件はないか、プロジェクト自体はいつ頃まで続くか教えて欲しい。

A: 不採算案件の発生額については今のところ想定内。チャレンジングで将来に繋がるような案件。後に引きずるようなものではなく、今期中に完了予定となっている。

Q: Q3 累計の情報通信の受注について、特定顧客の反動減があったという説明だったが、上期までは同様の反動減がありながらも、その分を別顧客でカバーしていた印象がある。これは、反動減を除くベースで見た時に、トレンドが変わったということか？また、ネットワーク投資が一巡したことによって、今後の受注にも影響が出そうか？

A: 先程説明した通り、反動があった 1 社以外の 2 社グループは Q3 累計で増加している。よって特段不安視はしていない。ネットワーク系の需要トレンドに大きな変化は感じていない。

Q: Q3 累計では 1 社の反動減を他の 2 社でカバーしたとのことだが、Q3 (10-12 月) でも同様か？

A: Q3 (10-12 月) では、他の 2 社は前年並。

Q: 不採算を除くベースでの売総率の改善傾向は、今後も続くのか？また、その他の収益及び費用が前年同期比で増加しているが、想定通りか？

A: 開発の売総率は、これまで 20%強と伝えてきたが、今期は改善傾向となっており、この傾向が続くよう努力していきたい。

その他の収益及び費用は Q3 累計で約 40 億円増えているが、半分が昇給や賞与増による人件費の増加。他は、四分の一程度が新基幹システム関連の業務委託料の増加。これに関しては、減価償却費も数億円増えている。このうち、新基幹系システムの業務委託料は来期には減少見込み。また、同システムのコストは期初想定と比べると若干多いが、通期の利益計画達成に向けて障害となるレベルではない。

Q: Q3 (10-12 月) 受注において反動減要因となっている、前年度 Q3 の情報通信の特定顧客向けネットワーク案件の規模はどれくらいだったのか？

A: 実数はお答えできないが、インパクトは大きかった。当該顧客向けの前年度 (16 年度) における Q3 までの受注は、その前の年度 (15 年度) と比べると +100 億円以上あったため、今年度はその反動減の影響が出ている。15 年度と今年度を比べると大きく変化しておらず、前年度は特需があった結果の高水準であった。今年度については通常の水準に戻ったと理解してほしい。

Q: Q3 (10-12 月) 受注について、前年同期は金融・社会インフラでも特需があったが、同事業グループはうまくカバーしているように見える。先程、Q3 の受注は想定よりも良かったと仰っていたが、金融・社会インフラや、流通・エンタープライズを含む全社で見た時に想定よりも良かったという意味か？情報通信だけで見ると想定通り反動減があり、そこでは特筆すべきプラス要素はなかったという理解でよいか？

A: その通り。

以上